

ビニル床タイルの施工方法

施工前の確認事項

◆ 施工環境について

- ・ビニル床タイルは施工時の温度の影響を受けやすい。急激な温度変化は寸法変化を引き起こしやすいので、施工環境は施工時を含め前後12時間程度は10℃以上に保つことが望ましい。
- ・タイルは高温に弱いので、熱源に近づけたり、極端な高温環境での使用は避ける。

<冬期施工時の注意点>

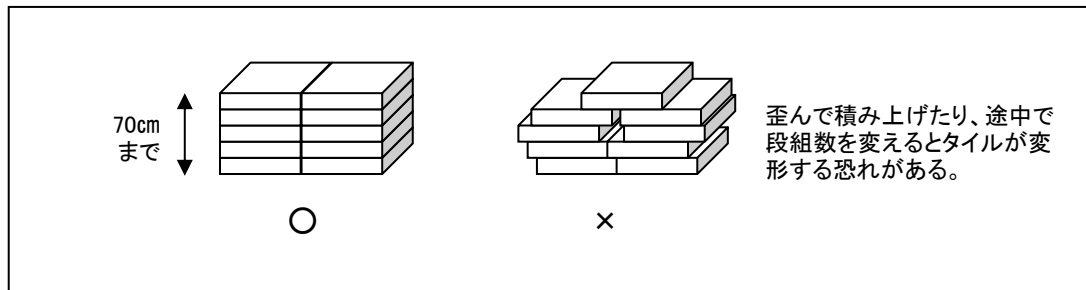
- ・下地の乾燥が遅くなるので、乾燥時間を十分に取り、下地に強度があることを確認する。
- ・床材が硬くなり下地になじみにくいので、施工前からジェットヒーターなどを使用して、室温を10℃以上に温め、床材を室温になじませる。
- ・接着剤はウレタン樹脂系溶剤形を使用するのが望ましい。
- ・床材の突き上げや目地隙の原因になるので、接着剤が完全に硬化するまでは急激な温度変化は避ける。
- ・接着剤の乾燥が遅いので完全に密着せず反りや剥がれの原因になりやすい。都度ローラーを掛け、ドライヤーなどを用いて床材を暖めながら十分に圧着を行う。

<夏期施工時の注意点>

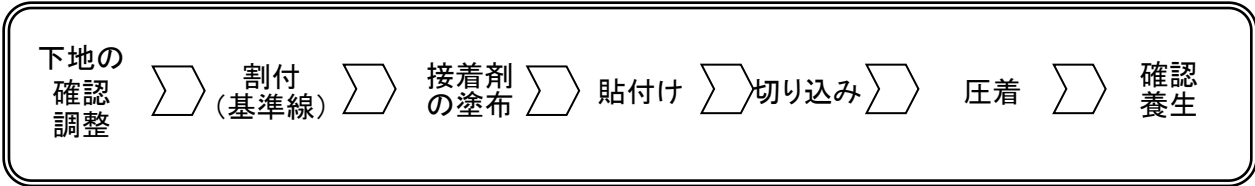
- ・温度が高いため接着剤の乾燥が速くなるので、1回の塗布面積に注意する。

◆ 材料の搬入及び保管について

- ・製品は荷受時、開封前に数量・ロット及び外傷無きことを確認する。
- ・上記問題ないことを確認したら、梱包をとかずに乾燥した平坦な場所にずらさず積載して保管する。
- ・室温に12時間以上なじませてから施工するのが望ましい。
- ・積載は70cm(5ケース程度)までとする。積み過ぎ、長時間にわたる直射日光や高温状態での暴露、雨水などによる水濡れは変色・退色・変質・カビの原因となるので避ける。
- ・接着剤は5℃以上の状態で保管する。



施工手順



① 下地の確認・調整

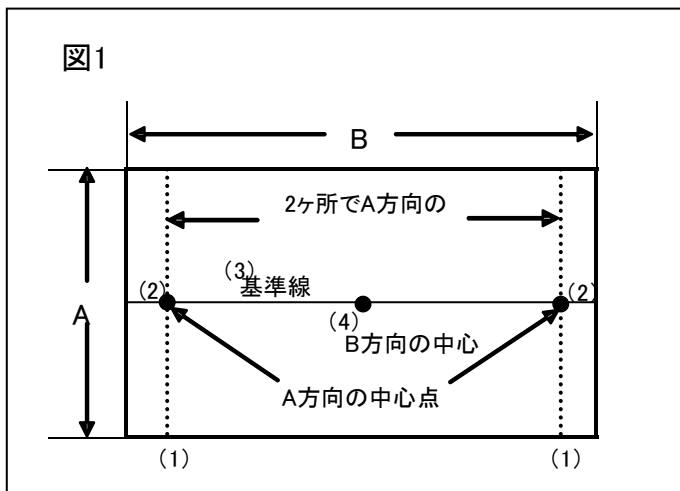
- ・下地が平滑、堅牢で、乾燥していること、汚れ、異物がなくきれいなことを確認する。
- ・必要に応じて下地調整を行う。
- ・下地の水分率が8%以下であることを確認する。
- ・下地合板に防蟻剤、塗料等の汚れが含まれる場合、変色の可能性が高まるので施工前に確認する。

ビニル床タイルの施工方法

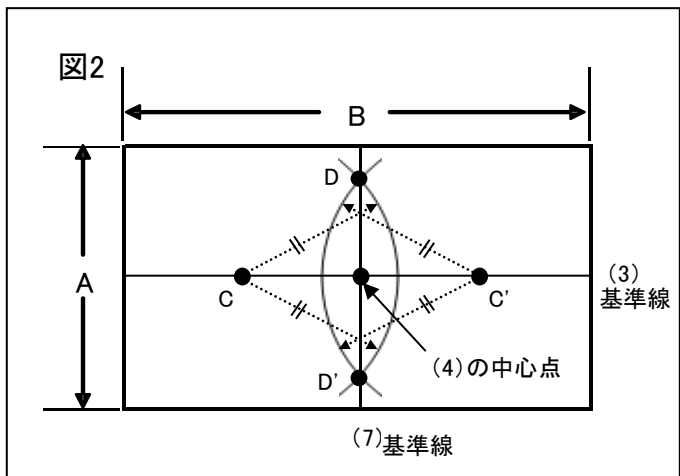
② 割付

- ・ 同一床面上は同ロットで仕上げる。
- ・ 貼り方向、取り合わせを検討の上、左右対称になるように割り付けを行う。
- ・ 現場施工部分の寸法、出柱などの位置を実測して、これに応じた割付を行う。
- ・ 壁際には、10cm以下の端物を入れないように割付を配慮する。(小さいサイズだと、美観を損ねるだけでなく、接着不良を招く恐れがある)

◆ 基準線の引き方



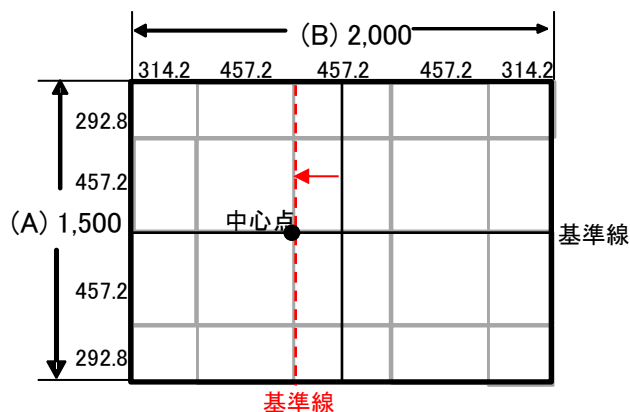
- (1) A方向の両端2箇所寸法を測る。(図1)
- (2) (1)の中心点を定める。
- (3) (2)の2点を結ぶ直線を墨打ちする。
- (4) 墨打ちした基準線の中心点を定める。



- (5) (3)の基準線上に(4)の中心点から同一長さのC、C'をとる。(図2)
- (6) C、C'を中心として同じ半径の弧を交わせ、D、D'をとる。
- (7) D、D'、中心点を通るA方向の基準線を定める。

A方向、B方向に入るタイルの枚数を算出し、奇数枚の時はタイルの半分の大きさだけどちらかに基準線をずらす。壁際に10cm以下の端物を入れないように割付を配慮する。

例 1,500mm × 2,000mmのスペースに457.2mm角のタイルを割付



材料計算

(A)方向

$1,500 \div 457.2 = 3 \dots \dots \text{余り} 128.4$
 $(128.4 + 457.2) \div 2 = 292.8\text{mm}$ (両サイド振り分け)
(余り) (タイル寸法)

タイル枚数: 4枚 ⇒ 基準線はそのまま

(B)方向

$2,000 \div 457.2 = 4 \dots \dots \text{余り} 171.2$
 $(171.2 + 457.2) \div 2 = 314.2\text{mm}$ (両サイド振り分け)
(余り) (タイル寸法)

タイル枚数: 5枚 ⇒ 基準線をタイル半分ずらす

ビニル床タイルの施工方法

③ 接着剤の塗布

- ・ 下地及び施工環境に応じて適正な接着剤を選定する。
- ・ 基準線で仕切られた1/4面に、所定のクシ目ゴテを用いて中心から均一に塗布していく。
- ・ 接着剤の貼付け可能時間や作業スピードを考慮に入れ、必要な面積だけ塗布する。

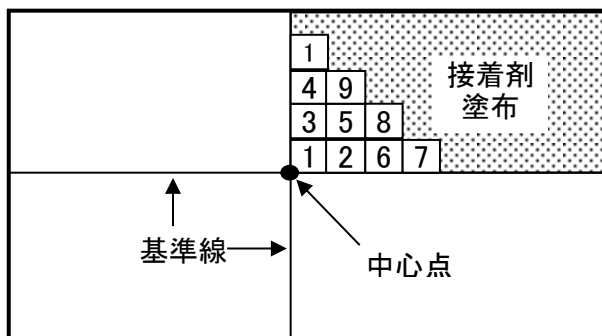
◆ 接着剤の選定

品名	リリカラセメントAC	リリカラセメントU
タイプ	アクリル樹脂系エマルジョン形	ウレタン樹脂系溶剤形
工法	一般工法	一般工法、耐湿工法
標準施工可能面積	約10㎡/3kg 約50㎡/15kg	約14㎡/5kg 約45㎡/16kg
オープンタイム(20℃)	10～20分	15～25分
貼付可能時間(20℃)	10～60分	15～60分
下地	セメント系モルタル、コンクリート	

- ・ 下地の状態により塗布量が変わり標準施工可能面積に差が生じる場合がある。
- ・ オープンタイムを充分に取らず、接着剤が乾燥しないまま施工すると、目地部分から接着剤がはみ出てくる可能性がある。
- ・ 接着剤を塗布した床面に、ごみや異物が付着すると接着不良になりやすいので注意が必要。

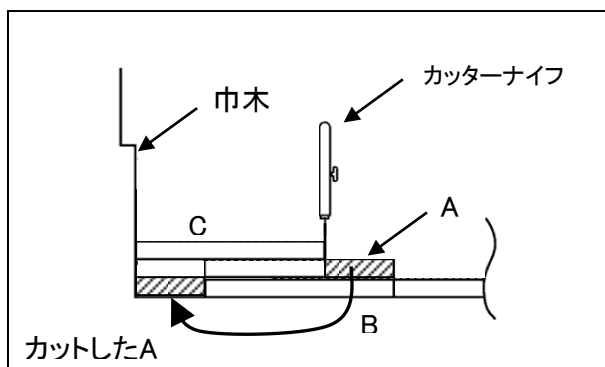
④ 貼付け

- ・ 裏面の矢印で流れ方向を確認の上、同方向または市松に貼り付ける。
- ・ 所定のオープンタイムをとり、目地ずれのないように、基準線に沿って中心点より壁際へ向かって圧着しながら順番に貼る。
- ・ 貼り付けは床タイルの目地の交差部分が+になるように、すき間なく置くように貼り付ける。
- ・ 製品によって寸法に若干のバラつきがあるので、目地のずれが生じた場合はずれが大きくなるうちに基準線の取り直しを行う。
- ・ 壁際のタイルの切り込み枚数が多い場合は、接着剤が乾燥しないように塗布する前に切り込みを行う。



⑤ 切り込み

- ・ 既に貼り終ったタイルの上でカット作業をする際は、養生用合板を下に敷くなどして、下側のタイルまで切り込まないように注意する。
- ・ 壁際や柱周り、パイプ周囲などに貼るタイルは、隙間や浮きのないように切り込む。



- (1) 壁際の切込みを行うタイル(A)を一枚手前のタイル(B)の上に正確に重ねる。
- (2) Aと同じ大きさのタイル(C)を壁面に合わせてAの上に重ね、定規にしてAをカットする。
- (3) カット面は壁側に向けて、カットしたAを壁際のスペースに貼り付ける。

切り口は軽くカンナで削り、バリ取りや裏ぬすみ(アンダーカット)をして納める。

ビニル床タイルの施工方法

- ⑥ 圧着
 - ・ 貼り付け後30分以内に、ハンドローラーや45kgローラーなどで十分に圧着する。
- ⑦ 確認・養生
 - ・ 接着剤などによる汚れや不備な点がないかを確認し、接着強度が出るまで、溶剤形、反応形の接着剤は48時間、エマルジョン形は7日以上養生期間を取る。
 - ・ 水や接着剤の溶剤によりタイルの突き上げなどが発生する恐れがあるので、接着剤が固まるまでは、水洗いやワックス塗布、養生シートによる養生を行わないようにする。
 - ・ また養生期間中は、接着剤が硬化していないので、重量物の往来や急激な温度変化は避ける。